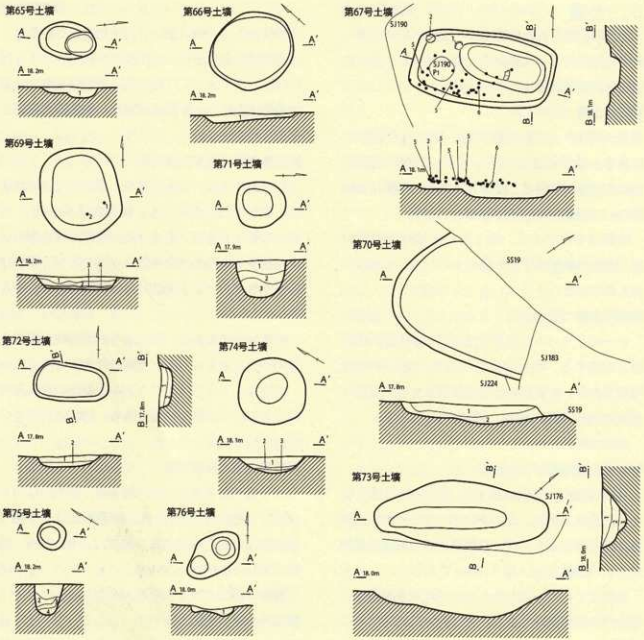


S K65
1　褐灰色土　黄灰色粘土（2～5mm）やや多い　炭化物（3mm程度）・焼土粒子（1～2mm）少量　粘性強い

S K66
1　暗灰色土　黄灰色粘土（2～5mm）や多い　炭化物（5mm程度）少量　粘性強い

S K69
1　暗褐色土　焼土粒子・炭化物少量
2　灰黄褐色土
3　暗灰褐色土
4　黄褐色土

S K70
1　黒褐色土　炭化粒子多量　やや灰色を帯びた青灰色ブロック少量
2　青灰色土　炭化粒子多量

S K71
1　暗褐色土　炭化物
2　暗灰色土　炭化粒子やや多い
3　青灰色土　炭化物

S K72
1　暗青灰色土　青灰色粘土（5～8mm）やや多い　炭化物（2～5mm）少量　粘性強い
2　暗青灰色土　炭化粒子（1～2mm）少量　砂質

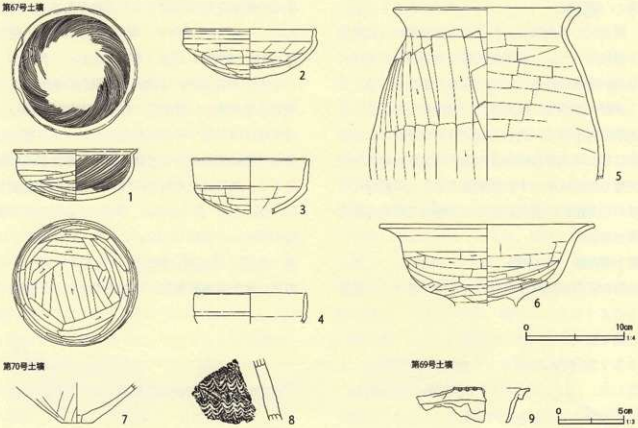
S K73
1　暗褐色土　炭化物・黄褐色粒子微量
2　暗灰色土　炭化粒子やや多い　暗褐色粒子・黄褐色粒子少量
3　青灰色土　粘土炭化物微量

S K74
1　暗灰色土　炭化物（1～5mm）やや多い　焼土粒子（5mm程度）少量　粘性強い
2　黒灰色土　炭化物（5mm程度）多量　焼土粒子（2～7mm）やや多い　粘性強い
3　褐灰色土　黒灰色土ブロック（5mm程度）・炭化物（5mm）・焼土粒子（2～5mm程度）少量　粘性強い

S K75
1　暗褐色土　炭化物ブロック（5～10mm）・炭化物粒子（1～3mm）多量　焼土粒子（3～5mm）やや多い　地山ブロック少量　土器片（5×10cm）含む　しまり強い　粘性強い　埋戻し
2　灰褐色土　地山ブロック多量　マンガンやや多い　炭化物粒子（1～5mm）少量　しまり・粘性やや強い　埋戻し
3　暗褐色土　地山ブロック多量　炭化物ブロック（5～20mm）やや多い　マンガン微量　しまり・粘性やや強い　埋戻し
4　暗褐色土　灰褐色ブロック・炭化物粒子（1～3mm）少量　マンガン微量　しまり強い　粘性弱い　埋戻し

S K76
1　暗灰色土　黄褐色粘土（5～10mm）多量　炭化物（2～5mm）やや多い

第387図　第65～67・69～76号土壙



第388図　土壙出土遺物

第165表　土壙出土遺物観察表（第388図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	坏	12.6	5.3	－	CHI	95	普通	橙	SK67　黒斑　渦巻き状暗文　№2	145-2・3
2	土師器	坏	13.6	5.1	－	AEHIJK	85	良好	明赤褐	SK67　身模倣坏　煤付着　№1	145-4
3	土師器	坏	(12.0)	5.6	－	ACDEHIJK	25	良好	明赤褐	SK67　蓋模倣坏　SJ190	
4	土師器	坏	(11.4)	3.1	－	AEK	10	普通	にぶい赤褐	SK67　蓋模倣坏　SJ191	
5	土師器	甕	(18.8)	17.7	－	ABCEHIM	25	普通	橙	SK67　№22・23他　SJ190	
6	土師器	高坏	22.0	8.3	－	AEHIJK	80	普通	橙	SK67　№13　二次被熱か　SJ190	131-2
7	土師器	甑	－	3.7	(3.1)	CJ	25	普通	明赤褐	SK70	
8	弥生	壺	－	4.7	－	EH	5	良好	橙	SK70　波状文	
9	弥生	壺	－	2.6	－	EHK	5	普通	にぶい橙	SK69	

第74号土壙（第387図）

W－59・60グリッドに位置する。第164号住居跡、第14号墳と重複する。軸方向はN－60°－Wで、形態は円形である。断面形態は皿型である。規模は長軸1.09m、短軸1.04m、深さ20.0cmである。

遺物は検出されなかった。

第75号土壙（第387図）

S－61グリッドに位置する。第188号住居跡内から検出された。軸方向はN－31°－Wで、形態は円形である。断面形態はU字型である。規模は長軸0.47m、短軸0.42m、深さ47.0cmである。

遺物は検出されなかった。

第76号土壙（第387図）

X－59グリッドに位置する。第179号住居跡内から検出された。軸方向はN－40°－Eで、不整楕円形である。断面形態は浅い甌箪型である。規模は長軸0.78m、短軸0.57m、深さ17.0cmである。

6．窯跡

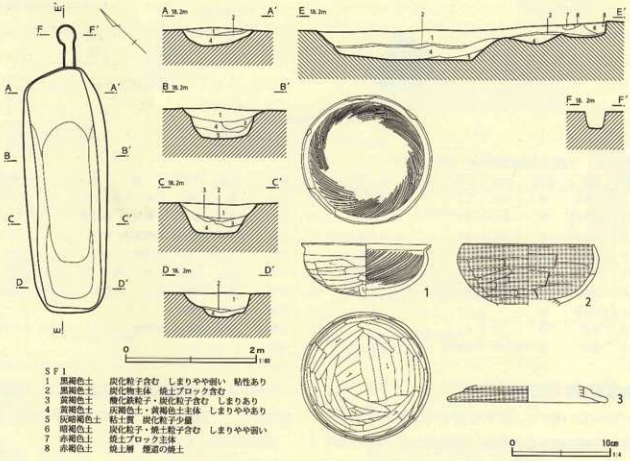
調査区の南西隅にあたる台地縁辺部から窯跡を1基検出した。土師器焼成壙の可能性が考えられるが、窯跡の性格について断定できなかった。

窯跡の時期は、検出された遺物の土師器坏から古墳時代中期で、概ね5世紀後半である。この時期にあたる土師器焼成壙の調査例はきわめて類例がなく、焼成壙とすれば集落内での土師器焼成の様相を具体的に明らかにできる極めて貴重な調査例となる。

第1号窯跡（第389図）

調査区の南側西端寄りのX－52グリッドに位置する。煙道をもつ半地下式の窯跡である。主軸方向はN－47°－Eを指す。規模は全長4.40m、燃焼部1.24m、燃成部1.07m、煙道部0.29mを測る。

平面形は短冊形である。窯尻は南西側にあり、煙道は北東側に位置する。燃成部より燃焼部にかけてほぼ同じ幅で伸び、先端部がわずかに膨らむ。断面形態は側壁がやや外側に開いた逆台形の形態である。窯尻はやや斜めに立ち上がる。煙道部分は、幅0.18m、長さ0.40m、深さ0.22mである。先端の煙出しの直径は0.29mである。断面観察では、覆土の第2層が炭化物を主体とする灰層である。壁及び床面に被熱が見られず、焼土化した部分が



第389図　第1号窯跡・出土遺物

第166表　第1号窯跡出土遺物観察表（第389図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	坏	13.1	5.3	—	CEHI	95	普通	橙	渦巻き状暗文　№1	145-7
2	土師器	高坏	(13.4)	6.2	—	ABEJ	40	普通	にぶい褐	赤彩　片岩多　№3	
3	土師器	高坏	—	1.6	(16.0)	ACEHI	5	普通	褐	赤彩	

ない。煙道部分はドーナツ状に被熱し赤褐色に還元されていた。

遺物は、1～3を図示した。1は内斜口縁坏である。丸底の底部から体部が外側に内湾して立ち上がる。口縁部は端部が屈曲し、内側に面をもつ。口縁部ヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、内面に放射状暗文が施されている。色調は赤褐色である。2は高坏である。内外面が赤彩されている。3は高坏の脚部破片である。

7．グリッド・表採（第390～398図）

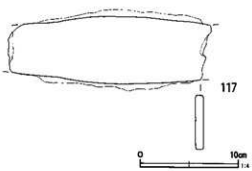
調査区内の遺構確認および遺構調査において遺構外から検出された遺物については、グリッド出土遺物として取り扱った。その中から主要遺物について第390～396図の1～143に図示した。また、古墳跡の調査の際に周溝内から出土した弥生時代の遺物について、第397図1～17に図示した。

1は土師器坏である。丸底気味の底部から体部が内湾して立ち上がり、口唇部が短く内側に伸びる。体部と口唇部の境に稜をもつ身模倣坏である。内外面を赤彩している。2は蓋模倣の坏である。3～27は壺である。3は底部平底で胴部が球形に張りをもち、口縁部は外反する。4は丸底の底部から胴部が球形に張りをもち、口縁部は外傾して直線的に伸びる。いわゆる大型坩である。口縁部内外面および胴部外面を赤彩している。6～9は二重口縁壺である。10・11は折り返し口縁壺である。14は口縁部内側に装飾が施された壺である。16は口縁部外面に三本の棒状浮文が張り付く。21～27は底部破片である。

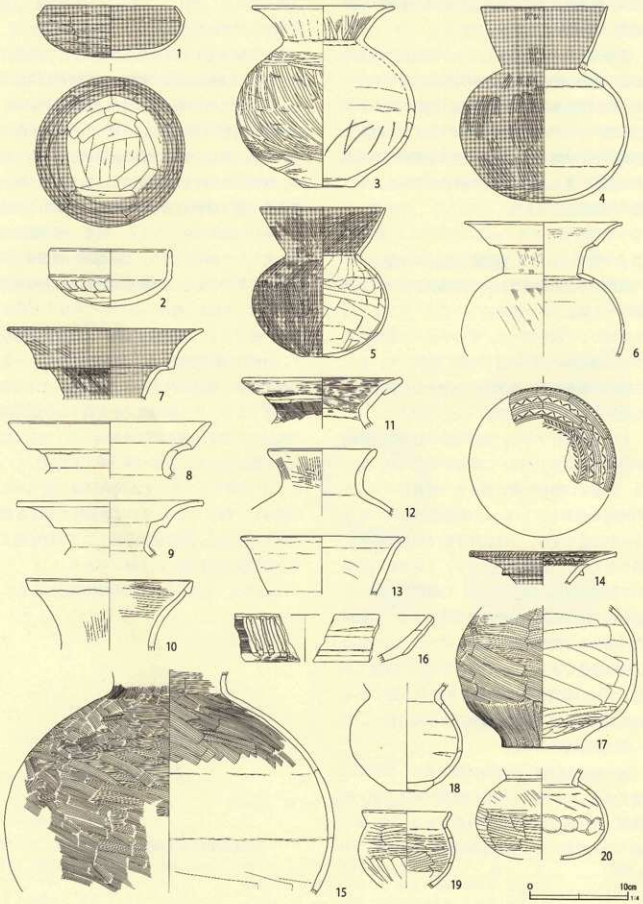
28～49は台付甕・小型台付甕である。50～63は甕である。64～66はS字状口縁甕である。68・69は甑、70～74は鉢、75は脚付鉢である。78～86・88・89は高坏、90～92は装飾器台、87・93～100は器台である。101はミニチュア土器、102・103は手づくねである。

104～114は弥生土器である。104は吉ヶ谷式の壺である。口縁部は貼付突帯により段を2段設けている。また楕円形の浮文を2箇所設けている。105は壺の胴下半部である。ヘラナデが加えられハケ調整が残る。106は吉ヶ谷式の壺の口縁である。輪積による段を3段設けている。頸部は無文である。107は甕の上半部である。口端部にキザミを施し口縁部は無文とする。頸部に櫛描簾状文を施文しハケ調整が残る。108は緩やかに外反する甕の上半部である。口縁部は無文で以下ハケ調整が残る。109は口縁部が緩やかに外反する複合口縁の壺である。口端部は工具による押捺を廻らす。110は口縁部が直立する複合口縁の壺である。口縁部に細い棒状浮文を貼付している。111は壺の胴部である。RL単節縄文を充填する沈線区画の弧状文に有孔の円形浮文を貼付している。112は壺の胴部である。原体不明の縄文を施文している。113は緩やかに外反する複合口縁の壺である。口縁部以下無文である。114は球胴形を呈する壺の胴上半である。網目状撚糸文下にS字状結節文を2段施文している。以下無文である。

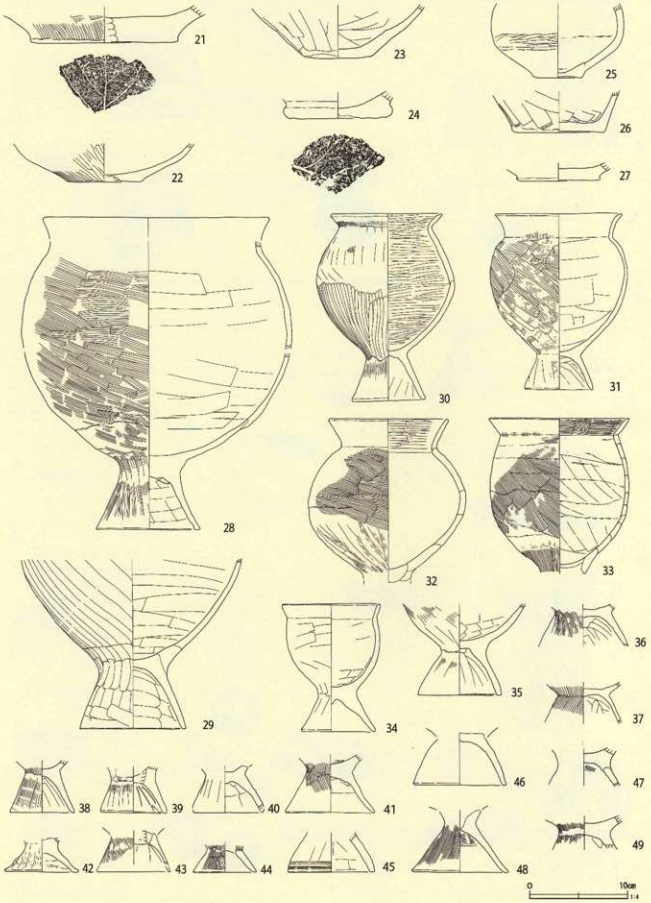
115は平瓦である。117は板状の鉄製品である。



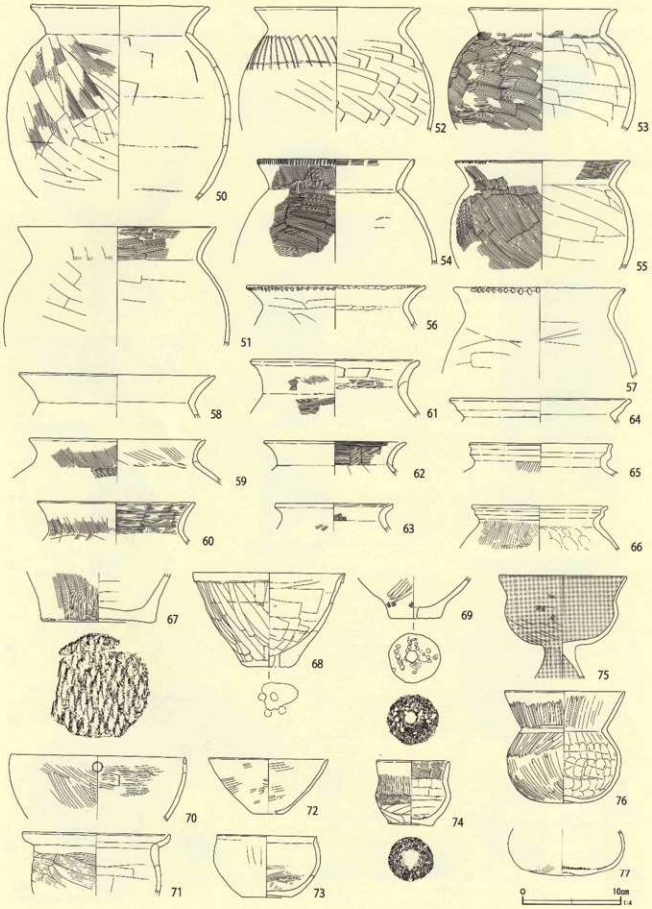
第390図　グリッド出土遺物（1）



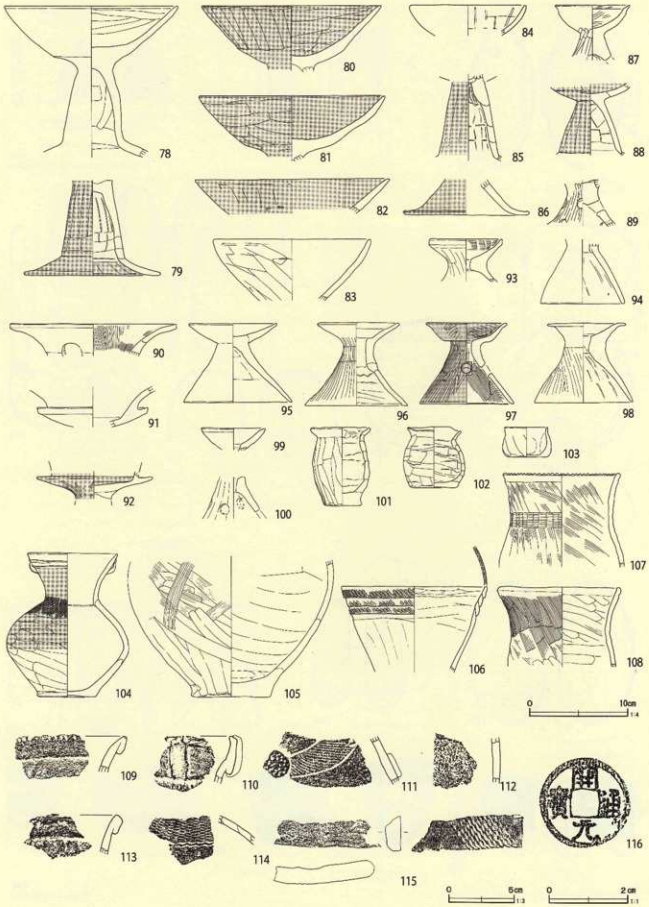
第391図　グリッド出土遺物（2）



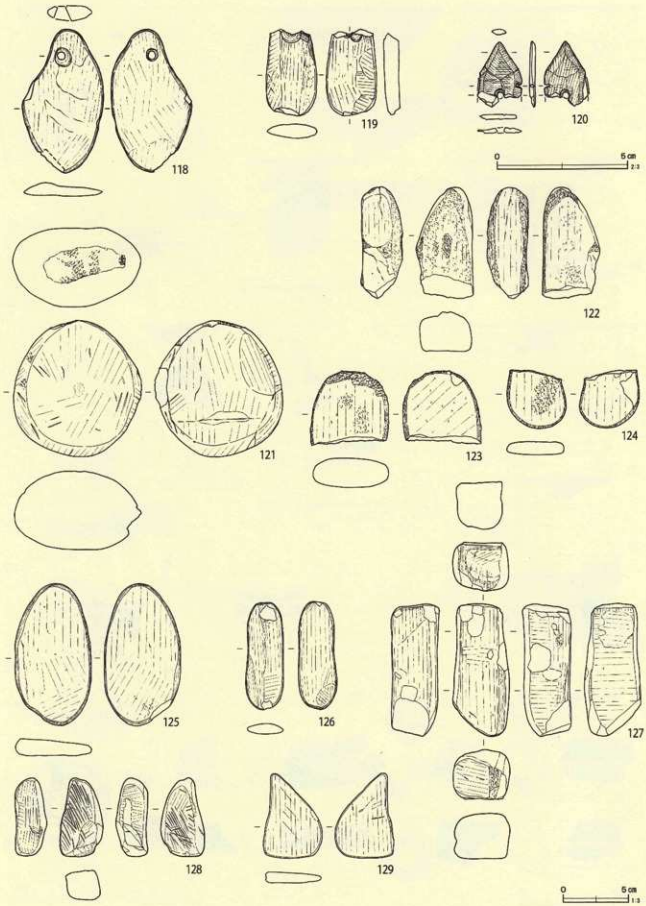
第392図　グリッド出土遺物（3）



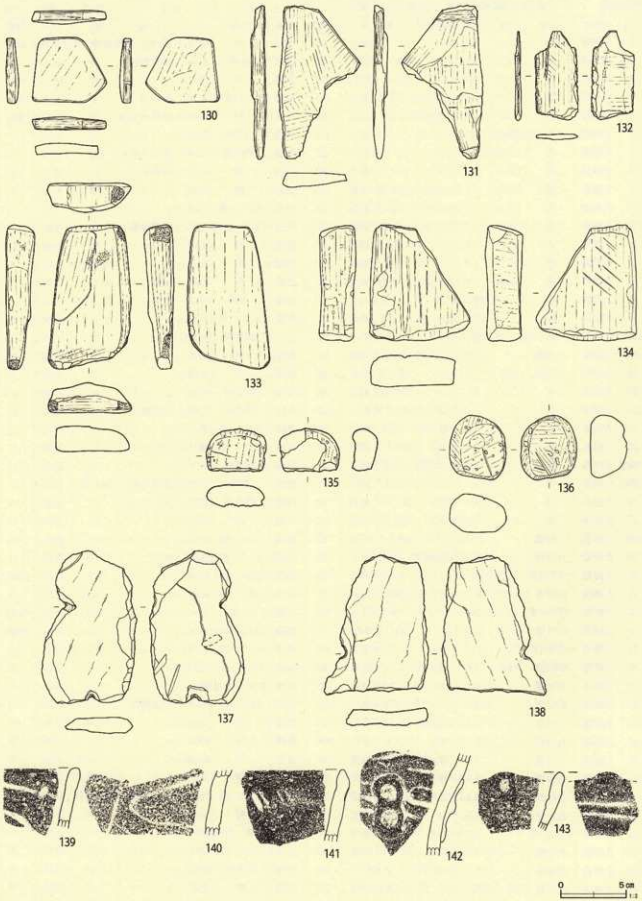
第393図　グリッド出土遺物（4）



第394図　グリッド出土遺物（5）



第395図　グリッド出土遺物（6）



第396図　グリッド出土遺物（7）

第167表　グリッド出土遺物観察表（第390～396図）

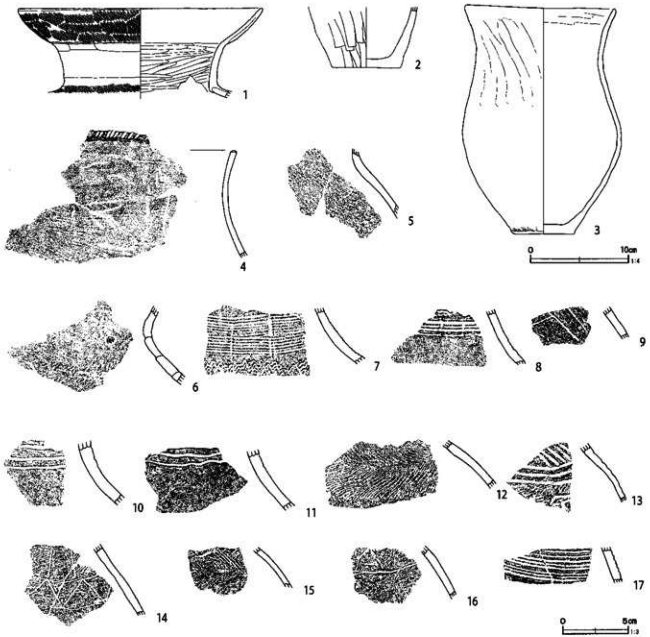
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　考	図版
1	土師器	坏	13.2	5.3	－	GI	95	良好	赤	W52G　赤彩　身模倣坏　比企型坏	145-5
2	土師器	坏	(12.2)	5.3	－	AEHIJK	50	普通	赤褐	X56G　蓋模倣坏	
3	土師器	壺	14.3	18.4	5.2	ACEHI	90	良好	橙	X56G	90-3
4	土師器	壺	(12.9)	19.7	2.3	EHIK	75	普通	にぶい黄橙	R58G　赤彩	90-4
5	土師器	壺	12.8	15.2	3.9	AEHI	80	良好	橙	S55G　赤彩　№23	90-5
6	土師器	壺	(16.0)	13.7	－	AEG	20	普通	浅黄橙	S58G	
7	土師器	壺	(19.0)	7.2	－	EHI	25	普通	明黄褐	V56G　赤彩　№1	
8	土師器	壺	(20.4)	5.9	－	EHIK	20	普通	橙	L62G　砂粒多	
9	土師器	壺	(19.0)	5.8	－	AEHIJK	20	普通	橙	J62G	
10	土師器	壺	(17.0)	7.2	－	ACEHI	75	普通	にぶい橙	T59G	
11	土師器	壺	(16.0)	5.2	－	AEHIK	20	普通	にぶい黄褐	S57G　銀雲母多	
12	土師器	壺	(13.2)	6.8	－	AEHIK	40	普通	橙	R58G	
13	土師器	壺	(16.2)	5.9	－	ECHIK	10	普通	橙	N60G	
14	土師器	壺	(15.0)	3.4	－	EHIK	20	普通	橙	X59G　赤彩	
15	土師器	壺	－	22.5	－	EG	20	普通	浅黄	S55G　№19	
16	土師器	壺	－	4.8	－	CEJK	5	普通	にぶい橙	W54G	
17	土師器	壺	－	14.3	8.0	EGH	75	良好	浅黄橙	W55G	
18	土師器	小型壺	－	10.9	3.9	ACEIK	50	普通	橙	R58G	
19	土師器	小型壺	(9.0)	7.8	－	ACEHIJ	30	普通	橙	W54G	
20	土師器	壺	－	9.4	－	ABEIJ	50	普通	明赤褐	V58G	
21	土師器	壺	－	3.7	(15.0)	EHL	20	良好	浅黄橙	X59G　木葉痕	
22	土師器	壺	－	3.9	(7.6)	BEHI	30	普通	にぶい橙	K61G	
23	土師器	壺	－	5.4	6.6	AEHIK	80	普通	にぶい橙	M61G　№3	
24	土師器	壺	－	2.8	(10.0)	EHLM	25	普通	浅黄橙	J60G	
25	土師器	壺	－	7.6	4.7	AEHIK	60	普通	明褐	T59G　雲母片多	
26	土師器	壺	－	4.2	9.0	ACDEHIJ	40	普通	明赤褐	V53G　№1	
27	土師器	壺	－	1.8	8.0	ABHIK	50	普通	橙	N60G	
28	土師器	台付甕	－	29.5	(10.4)	ABEHIJ	25	普通	にぶい橙	L60G	
29	土師器	台付甕	－	17.4	(10.8)	GHIK	25	普通	にぶい橙	S56G　№1	
30	土師器	小型台付甕	11.2	18.9	7.3	EHIK	95	普通	にぶい赤褐	V56G	104-3
31	土師器	台付甕	(12.8)	17.7	7.0	AEHIK	25	普通	にぶい黄橙	R58G	
32	土師器	小型台付甕	12.1	16.6	－	ACEI	70	普通	灰褐	V56G	104-4
33	土師器	台付甕	(14.2)	15.8	－	ACEHK	75	普通	にぶい黄橙	T59G	100-6
34	土師器	小型台付甕	(10.0)	13.0	(7.6)	AEHK	50	普通	にぶい橙	K60G	
35	土師器	台付甕	(13.6)	9.2	8.6	ACEHIK	80	普通	にぶい橙	K60G	
36	土師器	台付甕	－	4.4	－	BEHI	25	普通	にぶい黄橙	K62G	
37	土師器	台付甕	－	4.2	－	CEHK	70	普通	にぶい橙	K61G　器面磨滅	
38	土師器	台付甕	－	5.3	(6.6)	ACEHIK	70	普通	橙	K60G	
39	土師器	台付甕	－	4.7	6.6	ABEHI	80	普通	赤褐	K62G	
40	土師器	台付甕	－	4.6	(7.4)	ACEHIK	70	普通	橙	R58G	
41	土師器	台付甕	－	5.9	(9.0)	AC	60	普通	橙	K62G	
42	土師器	台付甕	－	3.4	(7.6)	ACHIK	30	普通	にぶい橙	N60G　器面磨滅	
43	土師器	台付甕	－	3.5	－	ACHI	15	普通	橙	N60G	
44	土師器	小型台付甕	－	3.1	(6.4)	EHIK	20	普通	にぶい黄橙	M61G	
45	土師器	台付甕	－	4.0	(8.7)	EHIJK	20	普通	にぶい橙	J61G	
46	土師器	台付甕	－	5.2	9.2	AIK	80	普通	明赤褐	R58G	
47	土師器	台付甕	－	3.8	－	CEIKM	70	普通	橙	R58G	
48	土師器	台付甕	－	6.3	(9.3)	EIJK	30	普通	橙	N60G	
49	土師器	台付甕	－	3.5	－	ACEHIK	80	普通	にぶい赤褐	R58G	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
50	土師器	甕	(18.2)	19.6	—	ACHK	25	普通	にぶい褐	R58G	
51	土師器	甕	(20.2)	12.2	—	ACEIK	30	普通	橙	N62G	
52	土師器	甕	(16.8)	12.7	—	AEJ	45	普通	褐灰	T59G	
53	土師器	甕	(15.0)	12.4	—	ACEHI	30	普通	橙	T59G	
54	土師器	甕	(15.8)	10.7	—	ACEIK	10	普通	にぶい赤褐	N60G	
55	土師器	甕	(17.4)	11.1	—	AH	35	普通	にぶい赤褐	S57G	
56	土師器	甕	(18.0)	4.5	—	EHI	15	普通	にぶい橙	L61G 内外面煤付着	
57	土師器	甕	(17.4)	9.2	—	ABEIJK	30	普通	橙	M61G SJ310	
58	土師器	甕	(20.0)	4.4	—	CEHIK	15	普通	橙	N59G	
59	土師器	甕	(18.0)	5.1	—	ACEHIK	30	普通	にぶい赤褐	L61G	
60	土師器	甕	(16.0)	4.3	—	AEHI	15	普通	にぶい黄褐	K62G	
61	土師器	甕	(17.0)	5.8	—	CEHIK	20	普通	にぶい赤褐	N61G	
62	土師器	甕	(14.4)	3.4	—	ACEIJK	10	普通	灰黄褐	M61G	
63	土師器	小型甕	(12.0)	2.9	—	CEHIK	15	普通	にぶい褐	L61G	
64	土師器	台付甕	(18.1)	2.5	—	EHI	10	普通	にぶい赤褐	R58G S字甕	
65	土師器	台付甕	(14.2)	3.3	—	CHI	5	良好	橙	K62G S字甕	
66	土師器	台付甕	(13.8)	4.6	—	EHIJK	20	普通	にぶい橙	L60G S字甕	
67	土師器	甕	—	5.0	(11.2)	ACEIJ	55	不良	灰黄	V59G 網代底 V60G	
68	土師器	瓶	(15.4)	9.6	(4.8)	EHIJM	45	普通	にぶい橙	V61G	
69	土師器	瓶	—	4.3	5.3	ACEIK	60	普通	橙	R58G	
70	土師器	鉢	(17.8)	6.5	—	EHIJ	20	普通	橙	T61G	
71	土師器	鉢	(15.0)	6.2	—	CEHIJ	25	普通	明赤褐	V59G	
72	土師器	鉢	(12.2)	5.6	(3.2)	ACHIJ	25	普通	にぶい橙	V56G	
73	土師器	鉢	(10.0)	6.2	5.0	CEHI	75	普通	橙	P59G	
74	土師器	鉢	7.3	6.5	4.7	AHIJ	100	普通	にぶい橙	N61G	125-8
75	土師器	脚付鉢	13.0	10.4	—	ACEHI	90	普通	にぶい橙	V56G 赤彩	132-6
76	土師器	坩	(12.2)	11.1	3.0	AEHIJK	40	普通	橙	V56G №1	
77	土師器	鉢	—	5.0	2.5	AEHI	70	普通	橙	W58G	
78	土師器	高坏	17.8	15.3	—	AIJ	80	普通	橙	N59G	131-3
79	土師器	高坏	—	9.6	13.7	AIK	90	普通	にぶい黄橙	N58G 赤彩	
80	土師器	高坏	(18.3)	6.6	—	AEHIK	80	普通	灰赤～橙	N59G 赤彩	
81	土師器	高坏	19.0	6.6	—	AHJ	75	普通	明赤褐	N59G 赤彩	
82	土師器	高坏	20.0	3.5	—	AHIK	25	普通	にぶい黄褐	N60G 赤彩	
83	土師器	高坏	(16.0)	5.2	—	ABCEHIK	25	普通	橙	L61G	
84	土師器	高坏	(11.8)	3.1	—	IJK	15	普通	橙	R58G	
85	土師器	高坏	—	8.8	—	ACDEHI	95	普通	にぶい橙	N60・61G 赤彩 器面磨滅	
86	土師器	高坏	—	3.6	13.0	CEIK	40	普通	にぶい橙	N59G 赤彩	
87	土師器	器台	(7.6)	5.6	—	BEHIJ	50	普通	明赤褐	P59G 四孔	
88	土師器	高坏	—	6.8	—	AEHIK	75	普通	にぶい橙	K61G 赤彩	
89	土師器	高坏	—	4.8	—	CEHI	100	良好	橙	W54G 四孔二段	
90	土師器	装飾器台	(16.9)	3.3	—	EI	20	普通	にぶい橙	S57G	
91	土師器	装飾器台	—	4.1	—	AEHI	20	普通	橙	W58G	
92	土師器	装飾器台	—	2.8	—	ACEHIK	90	普通	橙	R58G 赤彩	
93	土師器	器台	7.4	4.3	—	ACEHIJ	75	普通	にぶい橙	U61G	
94	土師器	器台	—	6.5	8.5	EHIJK	75	普通	明赤褐	SJ266	
95	土師器	器台	(9.0)	8.0	(11.0)	AEHI	50	普通	橙	R62G 石英多	
96	土師器	器台	8.2	8.4	(10.5)	AEHI	50	普通	にぶい橙	T59G	
97	土師器	器台	8.0	8.2	9.6	ABDEH	50	良好	にぶい橙	L61G 赤彩 四孔	
98	土師器	器台	8.0	8.1	10.0	ABEH	95	普通	にぶい橙	T59G 片岩多	136-3
99	土師器	器台	(6.6)	2.3	—	AEHIJK	45	普通	明赤褐	V53G	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
100	土師器	器台	—	4.3	—	EHI	50	不良	にぶい橙	SJ266	
101	土師器	ミニチュア	(5.8)	8.0	3.7	EHIJKM	90	普通	にぶい黄橙	R62G	126-9
102	土師器	手づくね	5.3	6.2	4.4	AEGHIK	75	普通	にぶい黄橙	R62G	126-10
103	土師器	手づくね	(4.4)	3.0	4.1	ACGIJ	90	普通	浅黄橙	S55G №34	
104	弥生	小型壺	(9.1)	14.7	5.8	ACGH	90	良好	橙褐	SJ266 赤彩 №1	
105	弥生	壺	—	13.9	7.9	ACG	30	普通	にぶい褐	X57G	
106	弥生	壺	(15.0)	8.7	—	AEHJM	30	普通	にぶい黄橙	S57G	80-4
107	弥生	甕	(11.6)	9.5	—	HIJK	40	普通	黒褐	X58G	
108	弥生	甕	12.7	8.0	—	IJL	20	普通	にぶい赤褐	S56G 外面煤付着	80-3
109	弥生	壺	—	2.8	—	HIJ	5	普通	にぶい黄橙	SJ266	
110	弥生	壺	—	3.6	—	CEHIK	5	普通	にぶい橙	K60G	
111	弥生	壺	—	3.6	—	EHIK	5	普通	にぶい赤褐	Q59G	
112	弥生	壺	—	3.5	—	ADEH	5	普通	にぶい橙	K61G	
113	弥生	壺	—	3.0	—	HIK	5	普通	浅黄橙	O60G	
114	弥生	壺	—	2.2	—	EG	5	普通	橙	K61G	
115	瓦	平瓦	長さ3.5	幅9.7	厚さ1.55		破片	不良	灰褐	K60G 模骨痕	
116	古銭	開元通寶	縦2.30	横2.35	厚さ0.10	重さ2.06				S61G	148-5
117	鉄製品	板状品	長さ20.3	幅6.4(最大)	厚さ0.9(最大)	重さ1033.23				T58G	149-9
118	石製品	垂飾	長さ5.5	幅3.2	厚さ0.6	重さ11.1 石材 砂岩				R59G 穿穴有り	151-16
119	石製品	垂飾	長さ3.3	幅2.0	厚さ0.6	重さ5.9 石材 凝灰岩				表採	151-17
120	石製品	剣形石製模造品	長さ2.5	幅1.7	厚さ0.3	重さ1.1 石材 頁岩				W55G トレンチ	151-15
121	石製品	敲石	長さ10.4	幅9.8	厚さ6.1	重さ864.0 石材 チャート				SS13 №48	154-2
122	石製品	敲石	長さ8.5	幅4.4	厚さ3.2	重さ160.3 石材 砂岩				SS21	154-2
123	石製品	敲石	長さ5.6	幅6.0	厚さ2.4	重さ106.9 石材 砂岩				U59G	154-2
124	石製品	砥石	長さ4.4	幅4.5	厚さ1.1	重さ29.7 石材 砂岩				SS13	
125	石製品	砥石	長さ10.9	幅5.8	厚さ1.6	重さ139.6 石材 結晶片岩				W55G トレンチ	
126	石製品	砥石	長さ8.2	幅3.0	厚さ1.1	重さ41.3 石材 緑色岩				Y54G	
127	石製品	砥石	長さ10.1	幅4.3	厚さ3.7	重さ302.1 石材 砂岩				Q59G	154-2
128	石製品	砥石	長さ6.1	幅3.3	厚さ2.4	重さ71.2 石材 緑色岩				SS25 P62G	154-2
129	石製品	砥石	長さ6.5	幅4.5	厚さ0.9	重さ31.1 石材 結晶片岩				R62G トレンチE	
130	石製品	砥石	長さ5.0	幅5.7	厚さ1.0	重さ40.1 石材 結晶片岩				M58G	
131	石製品	砥石	長さ11.7	幅6.2	厚さ1.2	重さ84.1 石材 緑泥片岩				SS23 T62G №20	154-2
132	石製品	砥石	長さ6.8	幅3.2	厚さ0.5	重さ14.9 石材 結晶片岩				SS16 周溝一括	
133	石製品	砥石	長さ11.0	幅6.3	厚さ2.3	重さ224.4 石材 砂岩				SS22 №3	154-2
134	石製品	砥石	長さ8.9	幅7.7	厚さ2.8	重さ189.1 石材 安山岩				SS19 №2 (S-58G)	154-2
135	石製品	砥石	長さ3.3	幅4.6	厚さ1.9	重さ15.8 石材 軽石				表採	
136	石製品	砥石	長さ5.0	幅4.3	厚さ3.0	重さ13.7 石材 軽石				X61G	154-2
137	石製品	凹石	長さ11.9	幅7.2	厚さ1.4	重さ168.1 石材 緑泥片岩				P59G	154-2
138	石製品	凹石	長さ10.6	幅8.0	厚さ1.6	重さ157.6 石材 緑泥片岩				SS22 №7 O59G	

118～138は出土した石製品である。118・119は垂飾である。120は剣形石製模造品で、基部は欠損している。121～124は敲石である。敲打痕が側縁部や器面に認められる。125～136は砥石である。135・136の石材は軽石で、削って研磨材として使用していた可能性も考えられる。137・138は凹石としたものである。石材はいずれも結晶片岩で、凹部分は貫通している。

139～143は出土した縄文土器である。いずれも表面は磨滅している。139は後期初頭の称妙寺Ⅱ式の深鉢形土器で、平行する沈線文が施文されている。140～142は後期前葉の土器で、140・141は堀之内1式、142は堀之内2式の深鉢形土器である。142は器面に8の字状張付が施されている。143は後期中葉の加曽利B2式土器で、3単位の把手をもつ深鉢形土器の口縁部の破片である。

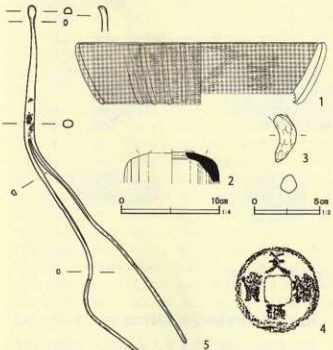


第397図　グリッド（古墳跡）出土遺物

第397図は古墳跡の周溝内から出土した弥生時代の遺物である。1は大きく内湾して開く折返し口縁の壺である。口縁部はＲＬ単節縄文を施文している。頸部は無文帯である。胴部はＲＬ単節縄文を施文している。2は壺の底部である。ヘラナデが加えられている。3は口縁部径と胴部径がほぼ同一の甕である。器面全体にナデが加えられている。4は緩やかに外反する甕の口縁である。口端部はキザミを施す。器面全体は無文でハケ調整が残る。5は壺の胴上半部である。細かい無節Ｒ縄文とＳ字状結節文を交互に施文している。6は壺の頸部から胴上半部である。細かい無節Ｌ縄文とＳ字状結節文２段を施文している。胴部と頸部の境界に円形浮文を３箇所貼付している。7は壺の頸部である。5本1単位櫛描簾状文とその下に櫛描波状文を施文している。8は壺の頸部である。無文帯下に櫛描簾状文と櫛描波状文を施文している。ハケ調整が残る。9は壺の胴部である。ヘラ描の山形文を施文している。10は壺の頸部である。ヘラ描沈線３条を施文している。11は壺の頸部で

第168表　グリッド（古墳跡）出土遺物観察表（第397図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	弥生	壺	(24.8)	9.2	－	CEHI	25	良好	橙褐	SS17	82-1
2	弥生	壺	－	6.2	7.0	AI	70	普通	茶褐	SS23	
3	弥生	甕	15.5	23.0	6.2	GIJ	70	普通	にぶい赤褐	SS17 №94・95	80-6
4	弥生	甕	－	9.1	－	ACGI	10	普通	褐	SS13 №4・7	
5	弥生	壺	－	5.3	－	AI	5	普通	褐	SS15 周溝	
6	弥生	壺	－	5.9	－	GHI	5	普通	褐	SS15 №31	
7	弥生	壺	－	4.4	－	AHI	5	普通	褐	SS13 №17	
8	弥生	壺	－	4.2	－	AI	5	普通	褐	SS13 周溝	
9	弥生	壺	－	2.6	－	G	5	普通	茶褐	SS16	
10	弥生	壺	－	4.9	－	I	5	普通	淡褐	SS15 X58G	
11	弥生	壺	－	4.6	－	I	5	普通	淡褐	SS16 周溝	
12	弥生	壺	－	3.7	－	HI	5	普通	橙褐	SS15 №24	
13	弥生	壺	－	4.4	－	CGI	5	普通	褐	SS16	
14	弥生	壺	－	5.4	－	GHI	5	普通	橙褐	SS15 №35	
15	弥生	壺	－	3.0	－	AG	5	普通	褐	SS15	
16	弥生	壺	－	4.0	－	GHI	5	普通	橙褐	SS15 №33	
17	弥生	甕	－	2.7	－	AI	5	普通	褐	SS15 周溝	



第398図　表採遺物

ある。ヘラ描沈線２条を施文している。ハケ調整が残る。12は球胴形を呈する壺の胴部である。無節Ｒ縄文と無節Ｌ縄文を交互に施文して羽状構成としている。下端にＺ字状結節文を１段施文している。13は中期後半の壺の胴部である。ヘラ描の斜行文の下に３条の沈線を引いて区画しＬＲ単節縄文を充填した単位文を施文していると考えられる。14は壺胴上半部である。沈線区画懸垂文にＬＲ単節縄文を充填しその下に沈線区画のヘラ描山形文を施文している。15は球胴形を呈する壺の上半部である。ハケ状工具による斜格子文を施文している。16は14と同一個体と考えられる。17は甕の胴部である。櫛描直線文を施文している。

第398図は表採遺物である。１は壺の口縁部破片で、外面に４本の棒状浮文が貼り付く。２は須恵器の横瓶、３は土製勾玉、４は古銭、５は青銅製のかんざしである。

第169表　表採出土遺物観察表（第398図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	(24.2)	6.3	－	CEHI	10	普通	にぶい黄橙	赤彩	
2	須恵器	横瓶	－	3.5	－	IK	10	良好	灰赤	自然釉	
3	土製品	勾玉	長さ3.6	幅1.8	厚さ1.4	重さ7.10	70				148-1
4	古銭	天禧通寶	縦2.20	横2.20	厚さ0.10	重さ2.30				真書	148-6
5	鉄製品	かんざし	長さ19.8	幅0.5(最大)	厚さ0.4(最大)	重さ12.33					149-6

報告書抄録

ふりがな	そりまちいせき
書名	反町遺跡Ⅱ
副書名	大規模小売店舗建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第380集
編著者名	赤熊浩一・田中広明・大谷　徹・上野真由美
編集機関	財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369－0108　埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1　TEL 0493－39－3955
発行年月日	西暦2011（平成23）年3月24日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
そりまちいせき 反町遺跡 第3次調査	さいたまけんひがしまつやまし 埼玉県東松山市 おおあざたかさかばん 大字高坂256番	11212	371	36°00′18″	139°24′40″	20071001 ～ 20080930	24,363	店舗建設 造成事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
反町遺跡 第3次調査	集落跡 河川跡 古墳跡	弥生時代後期	竪穴住居跡　14軒	弥生土器	
		古墳時代	竪穴住居跡　163軒 土壙　10基 溝跡　1条 窯跡　1基 河川跡　2条 古墳跡　16基	土師器・須恵器 石製品・鉄製品 木器	古墳時代前期の大集落、玉作工房発見。ガラス小玉鋳型が出土。河川跡から堰跡を検出し臼・馬鍬など大量の木製品が出土した。
		奈良・平安時代	竪穴住居跡　4軒	土師器・須恵器	「三田万」墨書
		中世・近世	溝跡　9条	陶磁器・古銭	

要約

反町遺跡は、時代によってさまざまに土地が利用された複合遺跡です。弥生時代から古墳時代前期にかけては地域の拠点となる非常に栄えた集落遺跡でした。その後、古墳時代後期には、古墳群が形成され、奈良時代になると再び人々の居住地となりました。古墳時代前期のこの地域では、新しい農耕社会に見られる臼・杵・鍬・鋤・馬鍬などの木製農具の使用や、河川管理を行う灌漑土木である堰構築技術の導入などを図り、水田耕地の開発を積極的に行ったようです。また同時に、ガラス玉や勾玉・管玉の玉作工房の存在も明らかになり、これまでの伝統社会と先進文化とが融合した社会へと変化したようです。やがて、古墳時代後期になると前方後円墳を中心に数多くの円墳が造られ、そこからは円筒埴輪や人物埴輪、馬形埴輪などが出土しました。このように反町遺跡の発掘調査では、当時の人々の暮らしぶりを彷彿とさせるいくつもの発見がありました。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第380集

反町遺跡II

大規模小売店舗建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
（集落編）

平成23年３月16日　印刷
平成23年３月24日　発行

発行／財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108　埼玉県熊谷市船木台四丁目４番地１
電話　0493(39)3955
http://www.saimaibun.or.jp

印刷／巧和工芸印刷株式会社